

武庫川ダムの代替案の検討結果

(一次見解書 p8 の根拠について)

武庫川の治水対策案の総合比較表

平成 10 年に検

検討案	河床掘削+引き堤案	河床掘削+低水路拡幅案	河床掘削+ダム案	河床掘削+既設ため池嵩上げ案	河床掘削+遊水地案
概要	治水基準点 基本高水流量 4,800m ³ /s (甲武橋) 3,700m ³ /s まで河床掘削、 既設青野ダム 400m ³ /s カット 残り 700m ³ /s 分引き堤 高水敷幅 30m を確保 確保できない箇所を引き堤	治水基準点 基本高水流量 4,800m ³ /s (甲武橋) 3,700m ³ /s まで河床掘削、 既設青野ダム 400m ³ /s カット 残り 700m ³ /s 分低水路拡幅	治水基準点 基本高水流量 4,800m ³ /s (甲武橋) 3,700m ³ /s まで河床掘削、 武庫川ダム 700m ³ /s カット 既設青野ダム 400m ³ /s カット	治水基準点 基本高水流量 4,800m ³ /s (甲武橋) 3,700m ³ /s まで河床掘削、 既設青野ダム 400m ³ /s カット 残り 700m ³ /s 分ため池、 調整池によりカット 上流域に点在する既設のため池、 調整池を嵩上げ+調整池新設	治水基準点 基本高水流量 4,800m ³ /s (甲武橋) 3,700m ³ /s まで河床掘削、 既設青野ダム 400m ³ /s カット 残り 700m ³ /s 分 遊水地によりカット
事業費	3660億円	2820億円	2500億円(2210+290)	7080億円(2210+4870)	7810億円(2210+5600)
自然環境への影響	下流河川への影響	現在、公園緑地として整備され、都市部の貴重なレクリエーション空間として利用されている高水敷約 66ha (仁川合流点下流) がほとんど確保できる	現在、公園緑地として整備され、都市部の貴重なレクリエーション空間として利用されている高水敷約 66ha (仁川合流点下流) のうち約 21ha がなくなる	現在、公園緑地として整備され、都市部の貴重なレクリエーション空間として利用されている高水敷約 66ha (仁川合流点下流) がほとんど確保できる	現在、公園緑地として整備され、都市部の貴重なレクリエーション空間として利用されている高水敷約 66ha (仁川合流点下流) がほとんど確保できる
	武庫川溪谷への影響	特になし	特になし	サーチャージ水位以下にある貴重種 14 種が影響を受ける可能性あり (試験湛水時の最大湛水面積 54ha)	特になし
	上流域への影響	特になし	特になし	特になし	既設のため池約 1020 個 (約 529ha) を嵩上げ、調整池を約 440 個 (約 186ha) 新設するため、約 715ha の土地を改変する必要がある
回避策		武庫川下流域で 21ha もの代替地を確保することは事実上困難 (確保するには、 21ha × 40 億円/ha = 840 億円 必要)	①河床付近に放流口を設けるため、洪水時のみ 54ha 水没するが、平常時には溪谷の景観や自然環境を保持 ②試験湛水時には、植物の移植等を含めた対策により影響を極力押さえる ③影響の少ない試験方法を採用する	環境調査を行い、影響とその対策を検討する必要がある 特に、既設のため池は良好な生物生息空間となっており、移植等の対策が必要と考えられる	環境調査を行い、影響とその対策を検討する必要がある
総合評価	用地、家屋等の補償が生じ事業費大	失われる緑地面積が大きく非現実的	最も現実的であり、環境への影響も小	事業費、影響面積とも大きく非現実的	事業費、影響面積とも大きく非現実的